

「最新の排せつ支援」に挑む

テクノロジー × 確かな知識 × 専門メーカー で実現する自立支援ケア

## ■令和8年度の重点ケア項目「排せつケア」

平成会では令和8年度、利用者様一人ひとりの自尊心や尊厳を守り、より快適に過ごしていただくため、これまでの「排せつした後のオムツ交換」から「排せつする前に予測してトイレへ誘導する個別ケア」への転換を最重要課題として取り組み始めています。

私たちが目指すのは、単に新しい機械を導入することではありません。

「確かな知識」「最新テクノロジー」「最適なオムツ選択」の3つを密に連携させ、現時点で最高レベルの排せつケアを実現することを目指しています。

## ■最善の排せつケアを支える「3つの連携」

### 1. 確かな介護・排せつ知識（職員の学びの推進）

排せつの生理的なメカニズムを正しく理解してこそ、最新機器や介護技術を最大限に活かすことができます。

### 2. 最新テクノロジーによるデータの「見える化」

超音波センサー等の科学的データに基づき、根拠のある排尿・排便タイミングを予測します。

### 3. おむつメーカーとの専門的連携

多種多様なオムツの中から、利用者様の身体状況や時間帯に合った最適な製品をプロの視点で選定します。

## ■主な具体的な取り組み

大型6施設を中心に先行導入を進め、年間を通じた綿密な研修・フォローアップ体制を構築しています。

## 2026年4月、最新機器の導入と導入記念講演を開催

◎排せつ予測支援機器「DFree」を導入し、個別データの収集を開始。



◎日本コンチネンス協会名誉会長・西村かおる氏を諏訪市（すわっチャオ）にお招きし、導入記念講演会を実施。

※コンチネンス（continence）とは、尿や便などの排泄を自分の意志でコントロールできている、正常な状態のことです。日本語では「禁制（きんせい）」と訳されます。



## 全4回の専門研修会(6月・7月・8月・9月)

◎日本コンチネンス協会長野県支部よりインストラクターを講師に招いた専門研修を実施。切迫性尿失禁や溢流性尿失禁などの実践的な事例検討を行い、職員の知見を深めています。



## 継続的なフォローアップと巡回アドバイス

◎DFree株式会社と毎月フォローアップ研修を実施中。

◎大王製紙株式会社(アテント)のおむつアドバイザーによる年2回の施設巡回を受け、適切なアドバイスを獲得。



## ■大型6施設での実践と成果(DFree活用状況)

DFreeを先行導入している大規模6事業所では、現在多くの利用者様に、データに基づく排せつケアを展開しています。

| 対象施設           | 導入台数 | 稼働規模 |
|----------------|------|------|
| 特別養護老人ホーム 福寿苑  | 8台   | 120名 |
| 特別養護老人ホーム さわらび | 8台   | 86名  |
| 介護老人保健施設 わかな   | 8台   | 100名 |
| 介護老人保健施設 掬水    | 8台   | 100名 |
| 有料老人ホーム せせらぎ   | 4台   | 120名 |
| 特別養護老人ホーム 松風   | 4台   | 50名  |

### ◎現場職員からの声

- ・「膀胱の数値だけでなく、動きが多い時間帯がわかるだけでも巡視の強化につなげられる」
- ・「人によってばらつきがあったケアが標準化されてきている」
- ・「排泄機能のことをしっかり勉強し、利用者様の個別ケアに活かしていきたい」



## ■目指す未来

平成会は、「科学的介護推進体制」の確立推進を通じて、以下の未来を目指します。

### ◎ご利用者様のQOL(生活の質)向上

トイレでの排せつ自立、失禁の減少、皮膚トラブル(かぶれ等)の軽減。

ご利用者様一人ひとりの身体機能や病状に応じ、自尊心が最大限尊重されるケアの実践。

### ◎根拠(エビデンス)に基づく自立支援介護の徹底

感覚だけに頼らず、蓄積されたデータと専門知識に基づいた最適なケアを提供します。